

MR・超音波・眼底 基礎知識図解ノート 第2版

監 修：新津 守(埼玉医科大学放射線科 教授)
 編 集：磯辺 智範(筑波大学医学医療系 准教授)
 編集協力：上牧 隆(筑波大学附属病院検査部 副技師長)
 佐藤 英介(北里大学医療衛生学部 助教)
 判 型：B5版 576頁 定価(6,800円+税)
 出 版 社：金原出版 2018年2月

本書はおもに診療放射線技師養成校ならびに臨床検査技師養成校の学生、現場経験の少ない新人技師を対象として編集されたものです。本書のコンセプトとして「難解な記述をできる限り排除し、図・表・画像をメインとして解説を付す」「臨床実習に臨む前の学生が、最低限必要な知識を網羅する」と記されています。また、編集のことばとして、MRI 検査、超音波検査、眼底検査について、数多くの書籍が出版されているが、「①原理・機器などの基礎が中心」、「②検査法と診断あるいは画像といった臨床が中心」、「③基礎2割・臨床8割」の3つに分類できる。学生諸氏に教授する場合、講義は基礎が中心で然るべきであるが、基礎を元にした臨床的内容も学ぶべきで、本書は「基礎8割・臨床2割」とし、前述の③と逆の構成にした、と記されている。そのため、本書の特徴は図・表・画像、写真の多さである。基礎的知識が、わかりやすい図・表・画像で示され、それぞれの解説も簡潔に記述され、更に多色刷りで視覚的にも理解できる内容となっている。また、「コラム」「ワンポイント」として用語、注意すべき事項などの説明が随所にあり、学びやすい構成となっている。「図解ノート」というサブタイトル通り理解を深めるためノートの的に使えるよう構成されている。今回6年ぶりに改訂され第2版として発行されました。臨床現場からの声を反映した内容が追記され、検査機器や手法の進歩に伴い加筆・修正されている。近年、MRI 検査・超音波検査については、多くの病院、検査センターで臨床検査技師が担当しています。その際に、基礎から臨床応用まで幅広く記載されている本書は、現場経験の少ない新人技師に大いに参

考になる本です。もちろん養成校の学生にもそれらの内容は、充分理解できる内容となっている。

MR、超音波の構成は、画像の成り立ちから始まり、装置、画像化の原理、撮影条件・・・、各項目ともわかりやすく説明されている。学生にとって理解しにくい基礎的内容は、図・写真を多用し、非常に分かり易く説明されている。新人技師向けにはMR画像では、「各部位に於けるMR検査」として、部位別に準備から撮影までの流れが示され、各種パラメータの違いによる撮影画像が数多く示されている。超音波画像では、「超音波検査の実際」として部位別の準備、体位等を含め撮影までの流れが示され、様々な画像描出法が示されている。MR・超音波の安全性についても詳しく説明されている。眼底画像についても、MR、超音波と同様に基礎から始まり、手法、装置、眼底像と分かり易くまとめられている。眼底像については、初学者でも分かり易いよう疾患毎に写真とポイント図解で示されている。画像検査で問題になるアーチファクトについても、その原因・対処法についてMR・超音波・眼底で、分かり易く解説されている。

以上の内容から、学生にとっては基礎をもとにした臨床的な内容の理解に、経験の浅い新人技師にとっては手元に置いておくテキストとして、さらに教授する教員にとっても「要点がわかる」というサブタイトル通り参考になる本です。

(野島一雄：愛媛県立医療技術大学保健科学部
 臨床検査学科 基礎検査学講座 准教授
 nojimak@epu.ac.jp)